

哲学の話

メモを取ること

メモを取ること

05/5/1

メモ・・・それは、先祖伝来の生活の知恵です。文字という法則に従って・・・あるいは、それ以前では図形などを利用して、後世に伝えたいことを石版や紙に残してきました。この習慣の無かったころは、言葉やしぐさだけで人とコミュニケーションをとり、知恵を受け継いできたわけです。

どうですか、今現代に住む皆さん？紙は生活の必需品であり、かつ、安易に手に入る代物となっています。ペンも街頭で配っているようですし、日常に解けきってます。皆さんは、生まれながらにして、ペンと紙を手にするのできる生物なのです。

しかし、昔は紙も筆記具も高級なものでした。庶民には手に入らないものだった。だから、“記録”という動作は、紙などが手に入る比較的裕福な人々しか行えない動作だったのです。

しかしながら、今は今。上記のような恵まれた環境にあります。さて、突然ですが、皆さんは“メモ”という習慣は、おありですか？メモを取るということは、メモを取らねばならないことをメモすることに他なりません。

つまり、メモを取るほど自分にとっては重要な情報だったといえるでしょう。その情報を、メモする・・・自分の考えていたことが後世に残せるなんて、なんてすばらしいことでしょうか！現代科学の粋を集めても、未だに人類の考えていること・・・すなわち、“思考”というものは本人にしか知りえません。

それを誰にでもわかりやすく・・・中には、自分だけがわかればいい、メモとして残す。これを日常の習慣として捕らえると、自分の人生がとってもナイスでラッキーなものになるよきと・・・(笑)。

ところがどうでしょうか・・・なかには、メモをとっても後々役に立たないものもあります。それは、メモを取ってすぐ後にメモをまとめないで放ってしまったから、役に立たなくなったのです。メモを取る際には何でメモを取るのかを考えるのが重要な要素となるでしょう。

となると、メモをとるにあたって、自分が過去に考えていた事をいつでもなるべく新鮮なまま思い出すことができるようにするには、自分にとって、“メモ帳”という宝石箱が愛着の沸くものでなければと思うよ・・・(笑)

きれいな字できれいな内容のメモを取ることは大事ですが、僕が大事にしていることは、メモ帳というものが自分にとっての“時間のスケッチ”になっていなければならない、ということです。当然、メモ帳がただのノートであっては、授業で使うノートとの差別化が図れません。

そこで、僕はメモ帳を“世界で一番大事な本”なんだ、という見方の元に、“白い本”というものを購入し、浪人時代のナガーイ、退屈な時間を無事乗り越えました(←これって、現実逃避って言うんだよねえ・・・笑)

白い本とは、最初から最後まで、すべてが無地の本で、ハードカバーの本であるにもかかわらず、1冊1000円で販売している、ものすごくお得な本なのです。だから、メモを種別に分割するという夢もかかないました(お金が無かったんだよう)。

こうやって、メモを自分の”タイムスケッチ”をする動作だと考えれば、いつまでも飽きることの無い、そして、贅沢な趣味となること、間違いないでしょう。さらに実益も兼ねたアイデア帳でもあり、実際、森の汽笛隊の記事は白い本のメモをよく参考にしたりしてますよ♪

記事の作成者

この記事は、管理人のMORIOが作成しました。

このページへのリンクはフリーです。転載も許可しています。転載の際は内容を変えないようお願いいたします。また、このページを利用して何かおきても、作成者のMORIOは一切、責を負いません。自己責任でご利用くださいネ！（なんと無責任な・・・）

この記事に関する質問、苦情、要求などがございましたら・・・

master@morik.net

宛てにメールをお寄せください。